

令和２年度 県立中央高等学校自己評価表

目指す 学校像	・「『知 (virtue)』の中央」として、地域住民や中学校から信頼される学校					
	・自律ある行動ができる生徒の育成に努める明るい学校					
・心のふれあいを大切にできる学校						
昨年度の成果と課題			重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況	
○成果 ・進路実績 国公立大学合格 2名 私立大学 合格 77名 短期大学等合格 8名 専修学校 合格 81名 公務員試験合格 6名 就職内定率100%達成 ・部活動実績（関東大会出場以上） 新体操 関東大会 出場 茨城国体 総合 3 位 ・落ち着いた学校生活ときちんとした身だしなみやあいさつ ○課題 ・家庭学習の定着を図る方策 ・明確な進路目標を設定させる方策 ・マナーやルールを守る意識の喚起			1 生徒の主体的な学習を促す授業による「学力」の向上	(1) 分かる授業の展開及び生徒の進路希望に沿う学力向上を目指し、指導を工夫する。 (2) 公開研究授業による指導技術の向上を図る。 (3) シラバスの有効活用に努める。 (4) 家庭学習の習慣化を図る。	B	
			2 生徒の多様な進路選択をサポートする個別指導の充実	(1) キャリア教育の充実を図り、個々の生徒に応じた進路目標を設定する。 (2) 課外指導や模擬試験の計画的実施とフォローアップにより、高大接続改革に対応できる学力の向上を図る。 (3) 進路ガイダンス、インターンシップ、大学見学会など進路実現に必要な体験の機会を多く提供する。 (4) 面談期間だけでなく、必要に応じ個別面談を行い、進路意識の把握、醸成を図ると共に進路情報を提供し、家庭と連携した進路指導を心掛ける。	B	
			3 ホームルーム活動や学校行事、部活動への自主的な参加促進	(1) 企画・運営を生徒中心にするなど、生徒の自主性を尊重した学校行事の運営を図る。 (2) 部活動の充実・強化を目指す。	B	
			4 生徒一人一人の自律を促す段階的指導の充実	(1) 頭髪・服装・挨拶・言葉遣いなども含めた基本的生活習慣の確立・定着を図る。 (2) 毎日の授業への心構えと安全・安心な生活環境の充実を図る。 (3) いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。	A	
			5 働き方改革の推進	(1) 業務量の適切な管理のため、学校組織自体や各種委員会の在り方を改善を図る。 (2) 在校時間管理システムの適切な運用により、勤務時間の超過を削減する。	A	
評価 項目	具 体 的 目 標		具 体 的 方 策		評価	達成状況及び次年度(学期)への主な課題
教科	国語	・基礎学力の向上	・家庭学習の定着を図るため、週末課題の設定などの工夫をする。 ・自ら学ぶ力の養成を目指し、積極的に辞書（紙・電子機器）を活用させる。		b b	A
		・読書指導の推進と記述力の向上	・読書感想文課題や、自分の進路に関する読書案内などを通して、本に触れる機会を増やす。 ・各種のコンクールに応募させたり、授業中に要旨や自分の考えを短文でまとめさせたりする。		a c b	
	地歴・ 公民	・基礎学力の向上	・図説資料や備品の積極的な活用、身近な話題や時事的な話題を用いた導入や発問、作業学習（机間巡視をとまなう）、問題演習等により、考える力と基礎学力の向上を図る。 ・成績不振者に対し、学習習慣の確立と基礎学力の向上のため補講や追試を実施する。		a c	B
		・受験指導の充実	・大学進学希望生徒に対し、目標を達成するための課外授業受講者の増加を図り、実施する。		b	B
		・評価の工夫	・学習プリントやノートの提出、長期休業中の課題の提出等を通して、観点別評価の工夫を図る。		a	A
	数学	・生徒の実態に応じた指導計画の改善充実	・生徒の進路希望に応じた課外授業を展開する。 ・成績不振者に補講を行う。		b b	B
		・基礎学力の向上	・授業中に発問を多くし、定期的に確認テストを実施することで、基礎学力の定着を図る。 ・数学技能検定を年2回以上行い、多くの合格者を出すように努める。		a b	
		・家庭学習時間の確保	・宿題や週末課題を課すことで家庭での学習習慣を確立させる。 ・長期休業課題を通し、安定した学力を維持する。		a b	
		・評価の工夫と改善	・定期考査、宿題、長期休業課題、授業態度等を通して、観点別評価の工夫を図る。		a	
・課外授業は平日・土曜ともに積極的に実施したが、進路希望に応じた課外をもっと取り入れたい。 ・数検の受験者は増加したが、合格率を上げることができるよう指導したい。 ・学習習慣の確立させるための長期休業中の課題を検討する必要がある。						

教科	理科	・多角的な授業の展開	・授業での生徒実験、演示実験の機会を増やす。	b		・生徒実験の回数は増加したが、今後継続的に実施し、技能の定着を目指したい。
		・進学希望者への対応	・I C Tを活用して授業を行う。 ・校外授業や放課後等の課外実験など、多様な学習形態を試みる。 ・学年主体の課外の他に、個別で生徒対応の指導を行う。	b b b	B B	・進学希望者に対して、課外の他に、各科目ごとに連携して個別に対応できた。
	保健体育	・運動の楽しさの体験と生涯スポーツへの継続	・選択制の授業形態の充実により、様々な種目選択を可能にし積極的な活動を促進する。	a		・実技に関しては、積極的に取り組む生徒が多く見られ、技能や基礎体力の向上に努めることができた。
		・運動をととした体力の向上	・自己や周囲の健康、安全に配慮し、技能や体力の向上に努める。 ・体ほぐし、体作りの運動を取り入れ、筋力や持久力、柔軟性といった基礎体力を高める授業内容を実施する。	a a	A A	・観点別評価については現在行っている形に加えて、更なる検討が必要である。
		・評価方法の工夫	・観点別評価を導入し、意欲、興味関心、技能などの面から評価を行う。	b	B	・コロナ渦の影響で十分な工夫や取り組みができなかったが、来年度は状況を見ながら様々な取り組みを試みる必要がある。
		・自己の体力の向上	・体力テストの結果により、自己の体力の特性を理解し、自ら改善の運動処方に取り組む姿勢を育てる。	b	B	
		・健康と安全についての総合的理解、健康の保持増進	・視聴覚教材を有効に利用し、具体的な情報を得ながら、興味・関心を持たせるよう工夫する。 ・健康診断や身体測定の結果等から自分の健康状態を把握させ、健康処方を作成する。	b b	B B	
	芸術	・＜音楽＞創造的で柔軟な発想力及び健全な芸術的判断力の養成	・コーラスや楽器による豊かな表現などを学び、音楽的な感性を磨く。 ・小アンサンブルによる活動に関心を持たせ、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解し、積極的に取り組む。	a a	A	・生徒の演奏を指導段階ごとに録音し、聴かせることで、さらに良い演奏にするためには何が必要なのかを考えさせることができた。
		・＜美術＞基礎的な技能と芸術を愛好する心情や豊かな感性の育成	・素描や塑像などの基礎的な課題から創作技術の向上を図る。 ・絵画、彫刻、混合技法などの創作活動を通して芸術と生活の関連性を理解し、芸術を愛する心情を養う。	a b	A	・ICTやワークシートを効果的に使い、毎時間目標を持って活動することができた。 ・発想や構想に苦手意識を持っている生徒への指導方法を検討する。
	外国語	・基礎学力の向上	・単元ごとの小テストの実施、ノートや課題の提出を通して基本事項の定着を図る。	b		・普段の授業に加え、小テスト、提出課題、課外授業、個別指導等を通して、基礎学力の向上と学習習慣の定着に努めた。
		・実践的英語力の向上	・学習習慣の定着のために家庭学習用の課題を与え、定期的に点検し、評価を加える。 ・授業や課外授業に、4技能をバランス良く育成する効果的な指導を導入する。	b b	B A	・生徒の4技能を育成し、英検等の資格取得や進路実現に向けて、更なる教材・授業研究が課題である。
		・生徒の実態に応じた指導計画の改善と充実	・英検の受験を奨励し、合格のための支援（一次・二次試験対策）を実施する。 ・生徒の実態に応じた授業展開と、生徒の取組を総合的に判断した評価に努める。 ・生徒の理解状況を把握し、不十分な生徒には個別指導を実施する。	a b b	A B	
	家庭	・基本的な技術の習得及び実践的学習の機会の提供	・より効率的かつ効果的な学習となるよう、授業計画の見直しを行う。 ・ホームプロジェクトを通して、より実践的・主体的な学習の機会を設ける。さらに学習を深めたい生徒には家庭クラブ活動や技術検定等への参加を促す。	b	B	・オンライン実習や実習用具の個別使用などの工夫により実践的学習の機会を維持することができた。さらに効率化を図りたい。
		・評価方法の改善を図る	・実習時の活動の評価について適切な評価ができるよう、観点別評価を取り入れた評価表の作成を試みる。	b	B	・より学習を深めたい生徒への対応や評価方法については今後も検討を重ねたい。
	情報	・情報社会に参加する態度の育成	・コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信できるようにする。	b	B	・動画配信を課題とすることで、情報収集や分析及びICTのスキル向上を図れた。
		・情報活用能力の育成	・プレゼンテーション能力の向上を図るため、生徒間での発表等を頻繁に実施する。	b	B	・更なるプレゼン能力を育成。

教務	・分かる授業の展開	・公開授業等の相互研修の機会を増やし、教科指導の工夫と研究を行い、教員全体の指導力向上に努める。	b	A	・中学校との相互研修や教員の指導力向上研修を通して、教員の指導力向上に努めることができた。 ・授業の中に生徒同士が学び合う活動や、思考力を育てる活動を取り入れ、主体的に学ぶ姿勢を育てるための教科指導研究が必要である。 ・学習意欲を喚起する授業の実践と家庭学習の習慣化による知識・理解の定着が課題である。 ・特色ある教育活動実践のため、選択科目授業の充実や高大連携授業の実践に取り組むことができた ・生徒が充実した学校生活を送ることができるよう、校務分掌間の連携をより密にし、年間行事のあり方・進め方を工夫する必要がある。 ・「図書だより」の発行、図書室の関連展示コーナーの充実など、生徒の読書習慣を促す工夫を行うことができた。
	・学力の向上を目指した指導の工夫	・生徒による授業評価を実施し、幅広い学力レベルに対応した効果的な指導ができるよう努める。	a		
	・シラバスの活用と評価	・アクティブラーニングを取り入れた授業研究に取り組み、主体的な学びを促す授業展開を図る。	a		
	・家庭学習の習慣化	・成績不振者の指導と成績中位・上位者への学習意欲のなお一層の喚起を図るため、教科・学年・校務分掌間の連携を図り、学力の向上に努める。	b		
	・特色ある教育活動の充実	・シラバスに沿った計画的な進捗と達成状況を確認し、積極的に観点別評価に生かす。	b		
	・年間行事計画の充実	・生徒の家庭学習時間を確保するために指導法を工夫し、課題（宿題）等を計画的に与えて、家庭学習の習慣化を促す。	b		
	・LHR、授業等の活用に応える図書室の充実	・海外の学校との交流、中国上海・韓国での語学研修、スポーツ科学コースにおける大学との連携授業など、特色ある教育活動を充実する。	b		
	・生徒の図書館利用の活性化	・教員・生徒が高い目的意識を持って学校生活に取り組めるよう、年間行事の充実並びに円滑な実施のために校務分掌間の調整を行う。	a		
	・図書委員の自主的な活動の奨励	・魅力ある学校行事を取り入れ、学校を活性化する。	a		
		・関連教科の担当者に利用を呼びかけ、対応した関連展示コーナーを作成する。	b		
進路指導	・課外指導等の充実	・生徒・職員が図書購入希望調査を年2回以上行い、図書・資料の充実を図る。	b	B	・コロナ休校および入試改革、日程変更などにより、進路指導計画に影響が出た。 ・より実践的な職業指導が必要である。 ・最新の進路情報の獲得が必要である。
	・インターンシップの充実と進路意識の高揚	・読書の推進を図るため、「図書だより」を年間8回以上発行する。	a		
	・進路指導内容の充実	・図書委員による昼休みの貸し出し業務を円滑に行う。	b		
生徒指導	・基本的生活習慣の確立と安全安心な教育環境の整備	・図書委員が自主的に校外研修に参加することを奨励する。	b	A	・服装・頭髪については、概ね校則が守られているが、継続して身だしなみの向上に努める。 ・自転車通学者の、歩道の併走走行についてが課題である。継続して道交法遵守を徹底させる。 ・各担任と家庭との連絡は密に行われ、トラブルもなく連携協力ができた。 ・情報モラル教育を推進しているが、SNS関連の指導案件が多い現状を踏まえ指導の徹底を図る。 ・定期的に、いじめアンケートを実施し状況の把握に努めることができた。
	・ルールの主体的な遵守と公共のマナーや規範意識の向上	・定期的に頭髪・服装検査を実施し、高校生として好ましい頭髪や制服の身だしなみを確認・指導する。特に男子生徒の長髪や一部の刈り上げ（ツープロック）等に注意を払う。	a		
		・さわやかマナーアップキャンペーンにおいて、生徒会役員や各学年生活委員及び保護者、地域住民、関係機関等と連携・協力して地域ぐるみで生徒たちを見守る体制を構築する。	b		
		・毎週火・木曜日8時10分～30分、羽鳥駅から学校までの通学路における登校指導を実施し、生徒指導全般（安全な自転車運転、身だしなみ、挨拶の励行）を確認・指導する。	a		
		・担任による面談指導を通して、マナーやルールを主体的に遵守できる精神の向上を図り、保護者との連絡を密にして、学校と家庭が一体となった円滑な生徒指導を行う。	a		
		・全校生徒を対象に講演会（交通安全教室、薬物乱用防止教室、携帯電話安全教室、制服着こなし教室）を実施することにより、マナーやモラルなど規範意識の向上を図る。	b		
保健指導	・健康診断の円滑な実施	・情報モラル教育を推進する。	b	B	・静かに待機させる指導が課題である。 ・早期発見・早期対応はできた。
	・教育相談の充実	・いじめを早期発見するため、年3回いじめに関するアンケート調査を実施する。	a		
特別活動	・学校行事の充実	・警察、児童相談所、法務局等の関係機関との連携を図る。	b	B	・生徒会役員を中心に、クラスマッチと蒼星祭の代替行事の運営に当たらせて。 ・キャリアパスポートのプリントを作成し実施した。この経験を元に修正していく。 ・来年度の蒼星祭を成功させる。
	・部活動の充実	・事前の連絡の徹底と円滑な診断のためのサポート体制を整備する。	a		
		・担任との情報交換を行い、不適応生徒の早期発見・早期対応ができるようにする。	a		
	・生徒のキャリア形成を促進	・学校行事に積極的・自主的に関わるように働きかけ、責任感・協調性の育成に努める。	b		

渉外	・各種行事への保護者の参加率向上	・PTA総会時に、3学年の進路説明会を開催し、総会への出席率が30%を超えるようにする。	—		・新型コロナ禍の影響を見通した行事のあり方を検討する必要がある。
	・広報活動の活性化	・行事開催の3週間前には案内を配付できるように計画をすすめる。	a	A	
	・スクールバスの適切な運営	・PTA会報「もにたあ」を9月下旬と2月下旬の年2回発行する。	a	A	
		・業者と緊密に連携し、生徒の利用実態に即した運行ができるようにする。	a	A	
事務	・学校財務マネジメントによる校内予算の管理	・校内予算を有効活用するには、学校目標や経営計画等に基づき、その課題を改善すべく予算執行することも重要だと考えられるため、その具体的方策について検討していく。	b	B	・予算管理・執行については、校務運営委員会等で幅広く意見を聞きながら、より効果的な活用を心がける。
	・茨城県予算の適正な執行	・公金を扱っているという認識のもと適正な事務処理を行うことは勿論、コスト意識に基づき早期かつ効果的な予算執行に努める。	b	B	・引き続き施設設備の事故等がないように日々の巡視等に努め、老朽施設設備等の整備を進めていきたい。
	・施設設備の適正な管理	・日々の業務の中で事務職員と技術職員の連携を図り、修理箇所への対応を早期に実施する。学校施設設備による事故が発生しないよう校内巡視等を強化する。	a	A	
第一学年	・基本的生活習慣の確立	・高校生としてふさわしい挨拶・言葉遣い・服装頭髪ができるよう指導を徹底する。	a	A	・授業に対する準備がしっかりと整っていない生徒も一部見られた。授業の準備を徹底させ、学習習慣を改善させたい。
		・面談を重視し、生徒の長所や個性を把握し悩みや問題を早期に解決するように努める。	a		・課外指導を実施しているが、受験に対応できる学力に必ずしも達したとはいいがたい。指導を工夫し、地道に学力向上をサポートしていきたい。
		・しっかりと話を聞く態度・姿勢を身に付けさせ、教育効果を最大限に高める。	a		・11月の校外模試で数値目標を達成することができなかった。成績上位層を引き上げ目標に近づけられるよう、今まで以上に積極的に授業、課外に臨ませ、復習を習慣付けさせ学力の向上を目指したい。
	・基礎学力の向上	・授業を第一と考え、そのための準備を整え集中して臨むことにより、学力の向上を図る。	b	B	・探究の時間「茨探」に積極的に取り組み、一定の成果をあげることができた。
		・朝ドリルを実施し基礎学力の定着を図るとともに、平日の放課後(週3回)、土曜日、長期休業日等に課外指導を実施し、受験に対応できる学力の向上を目指す。	a		
		・成績不振者への指導を徹底し、個々の生徒の実態に合わせて学習意欲の向上を促す。	c		
		・校外模試の数値目標を、平均偏差値50以上を、国語は25名以上、数学は15名以上、英語は10名以上とし、目標を目指して指導する。	a	A	
	・進路意識の高揚	・進路意識を高めるために進路講演会や出前授業・大学見学会を開催する。	a	A	
	・特別活動への積極的な参加	・積極的に部活動や学校行事に参加させ、集団生活の中での感動や充実感を体感させる。	a	A	
	・保護者(家庭)との連携	・保護者面談を充実させ保護者との意思疎通を図ると共に、情報の共有に努める。	a	A	
第二学年	・生活指導の充実	・面談を重視し、生徒の長所や個性を掌握し、悩みや問題を早期に解決するよう努める。	a	A	・休校で生活リズムの崩れた生徒もいたが面談をして状況を把握し対応できた。
	・基礎学力の向上	・英語の基礎力養成を図る。実用英語検定の合格者数を指標とし、3級・準2級・2級合格率70%以上を目指す。	b		・英検は合格率こそ5割に満たなかったが英語の力は付いてきた。模試での英語の偏差値が上昇。今後も模試の効果的な活用を考えていきたい。
		・進研模試での偏差値50以上の人数を、国語は20名以上、数学は15名以上、英語は10名以上を目標として指導する。	b		・コロナ禍でITを利用する機会が増えた。進路行事を経て意識も高まってきた。
	・進路指導の充実	・従来の進路行事に加え、ITを利用した情報収集に努め、進路別LHRや探究学習の時間を有効に活用することで、進路意識を高める。	a	A	・修学旅行が中止となり、代替事業としてリモートでの平和学習と遠足を実施。有意義な活動となった。今後も体験的活動の新しい形を考えたい。
	・学校行事への積極的な参加	・中核学年としての役割を自覚させ、部活動や文化祭・修学旅行等の行事に積極的に参加させ、体験的活動を通して成長を促す。	b		
第三学年	・キャリア教育の充実	・進路別LHRを有効に活用し、生徒それぞれの進路希望に応じた適切な指導を実践する。	a	B	・進路別LHRを生徒の実態に合わせて効果的に実施することができた。
		・進路指導部との連携を図り、生徒全員の進路希望を実現する。 ①大学・短期大学合格者80名以上を目指す。 一般試験合格者10名以上を目指す。 ②各種専門学校や医療看護系専門学校合格・就職内定率100%を目指す。	b		・コロナ禍の影響で、専門学校推薦・就職試験の時期が重なったが、職員の協力のもと計画どおり指導することができた。
	・学力の向上	・大学進学希望者の家庭学習時間平均4時間以上を目標とし、実現するための課題や学習計画指導の工夫をする。	b		・大学3名、専門62名、医療看護系専門16名、就職25名が合格・内定した。
		・平常課外や土曜課外、夏季・冬季休業中の課外への積極的な参加を促すとともに、最後まで受講する指導を徹底する。	a	B	・受験に対応するための課外のあり方・進め方に改善や工夫が必要である。
		・目標値を設定したり、テスト後の解説を徹底し、模擬テストを有効に活用する。	b		・大学進学に対する方針・数値目標が現実的であるのか検討する必要がある。

※評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない